

光市医師会報

昭和63年12月号

No. 194



枯木立

光市医師会

医師会月間行事

昭和63年11月度理事会

11月8日(火) 午後7時30分～

光市医師会館

出席者; 竹中会長・福本副会長

丸岩・富恵・赤崎・藤原・

近藤・梅田・吉村各理事

議 題 (報告・協議事項)

- 1) 第109回定例代議員会の報告
(竹中会長)
- 2) 定款改定の検討(審議)(竹中会長)
かねてより光市医師会定款等改定委員会で検討の作業が進められていたが、このたび改定案がまとまる。理事会で検討の結果改定案を了承。臨時総会を開催して議案提出する方針で意見の一致を見る。
- 3) 来年度学校医、出務料等について
(福本副会長)
来年度要求額の説明
- 4) 夜間診療アンケートの件
(福本副会長)
各医療機関の診療状況の実態調査をおこなう事で合意
- 5) 永年勤続者記念品の件 (梅田理事)
記念品代は昨年度に準ずる。
(受彰対象者)
3年—7名、5年—8名、10年—1名
20年—2名、30年—1名 計19名
- 6) その他
 - イ) 医療情報システム担当理事の件(新設)
丸岩理事を担当理事に指名
 - ロ) 新三種混合ワクチンの件

周南三師医師会役員協議会

11月25日(金) 午後7時～

於徳山市明福ホテル

出席者

(徳山医師会) 永末会長、徳長副会長

光永副会長、石川理事、武居理事

(下松医師会) 西辻会長、藤原副会長

篠山理事・松野理事・野見山理事

(光市医師会) 竹中会長、福本副会長

富恵理事、吉村理事

議 題

- 1) 64年度要望について
学校医手当、予防注射、乳幼児健診、
出務手当等
- 2) その他



心電図研究会 (第5回)

(下松・光市医師会合同)

11月18日(金) 午後7時30分～9時

光市立病院講義室

演 題 「心電図の読み方」

講 師 徳山中央病院 河野隆任先生

- (症例Ⅰ) 心筋梗塞 赤崎先生症例
主訴—左胸部痛、56才、男
- (症例Ⅱ) 心筋梗塞 河野先生症例
主訴—左前胸部激痛発作、73才、女
- (症例Ⅲ) 心筋梗塞 河野先生症例
主訴—左前胸部圧迫発作・疼痛発作
39才、男

昭和63年11月度月例会

11月22日(火) 午後8時30分～
光市保健センター

議 題 (報告・協議事項)

- 1) 第109回定例代議員会の報告
(竹中会長)
10月27日に執行された山口県医師会裁定委員補欠選挙において、松村晴正先生が裁定委員に選出された。
- 2) 光市医師会定款改定の説明
(竹中会長)
会長より定款の改定の理由ならびに改定案の内容の説明がある。(条項を整理し、わかり易くした。会計問題の整理。委任状に対しての選挙権の問題等が大きく変わった点である)。なおこの件に関して12月15日に臨時総会を開催したい旨の申し出がなされた。
- 3) 夜間診療患者調査について
(福本副会長)
夜間診療調査票が作成され、来年度より実行したい旨提案、了承を得る。
- 4) 医事紛争担当理事協議会の報告
(丸岩理事)
- 5) 忘年会の件
- 6) その他
死亡診断書記載の変更について

研修会 (講演会)

11月22日(火) 午後7時～
光市保健センター

演 題 「肝炎・肝癌」

講 師 厚生連周東総合病院
名誉院長 水田 実先生



研修会バス運行

第10回生涯研修セミナー出席
63年11月20日(日)
山口県婦人教育文化会館
乗車—14名

県医師会行事・同関連行事出席

- 1) 結核審査会
福本副会長出席—11月17日、徳山保険所
- 2) 郡市医医事紛争担当理事協議会
丸岩理事出席—11月10日、県医師会館
- 3) 郡市医医療情報システム担当理事協議会
丸岩理事出席—11月24日、県医師会館



祖父の昔話

藤原邦彦

やれリクルートだ、消費税だと気分の悪い毎日だが、特に憤懣やるかたないのが今回の医師税制の見直しで、この文を書くテーマにしようと思いついたが、増々頭に血が登って、文が支離滅裂になったので、頭を冷す意味で急遽内容を変更した。

私の祖父は明治21年9月15日生まれで、今年百歳になり、国、県、町等からお祝を戴いたが、もし意識があれば大いに喜んだことであろうが、この一年以上入院したまま点滴で生きている様な次第であり、残念であった。新聞報道によると山口県で百歳以上の人が54人もある。祖父の生まれた今から百年前と言え、大日本帝国憲法が発布されたころで、日清、日露の戦争のずっと前である。

その祖父から子供の頃幾度となく、いろいろな話を聞かされて育った。今は聞けないが、病床で寝ている顔をみながら思い出した話を一つ紹介してみる。歴史との関わりがあって面白い。この話は祖父がその祖父から聞いた話で、その祖父も八十歳以上の長寿（当時）であった。

江戸末期、宇部と秋芳洞の中間に位置する田舎の小さな村で毛利家直轄領であったのが私の先祖の住んでいたところで、隣村は桂家（桂小五郎と関係があるのか）の領地であったようだ。

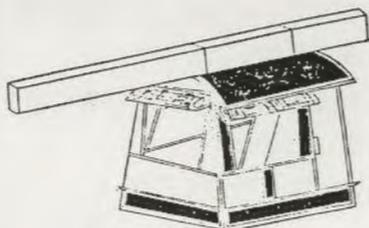
一日の野良仕事も終って、やれやれと痛い腰をさすりながら家に帰ると折しも黒頭（くろがしら一村役人）より“郷の順であ

る”との連絡。さあ大変と女房に飯を炊かせ、未だよくうみもしない（蒸し不足）のをおにぎりにして竹の皮に巻き、かもえ（鴨居のこと）に釣り下げてある草鞋を履き、もう一つは腰に下げ、竹の杖（必携品）をもって“隣村の〇〇も行くから”との伝言もあり、同心しよう（一緒に行こう）と道を急ぐ。日はとっぷりと暮れ、行く先はかんば（恐らく代官場のことであろう。楠町一船木に代官が居り約3～4里の道程）。

かんばにつくと、火が赤々と燃えており周りで話に花が咲いている。すると役人から次々と仕事が命令されるわけだが、中には屋敷の勝手口に戻って、役人の奥様に、“何か仕事は御座居ませんか”等と言って、水汲みや榎割り等をしていると、役人から“お前はこれを運べ”と言われるのが小さな茶壺が一つ、それを持ってきた杖にさして持って行けば仕事は終る。裏での仕事が効を奏したのであろうが、何もしないで火の囲りで話をしていた者には“これを粗相のない様に担げ”と言われた二人組があったようだ。それは二本差しの侍の乗った駕籠で、中には旅の無聊を慰めるべく花活け迄乗せてあったようだ。二人はその重い駕籠をエッチラ・オッチラ狭い山道（今の様な広い道はない）を担いでいて、前の者が石に躓いて転び、駕籠は道の側の斜面を待もろ共ごろごろと転げて落ちたようだ。前の駕籠を担いでいた者はくれもくれ（一目散）に逃げてしまったが、残った後の駕籠かきは、やがて這い上ってきた烈火の如く怒った侍に無礼うちで切られるかと“こりゃどうしようか、こりゃどうしようか”と腰が抜けていたようだ。しかし侍も“思え

ばお前が悪いわけでないから”と許してくれて、駕籠はそのまゝに、侍の荷をもたされて小郡（船木の次は小郡に代官所があった）迄行ったようだ。多分真暗な夜道で侍も恐かったのではなかったかとの話であった。

担ぐ駕籠の中もいろいろで、無宿者の浮浪者が多かったそうで、自分の藩で邪魔者なので隣の芸州へ運ぶ、隣藩では送り帰すと言ったことをやり農民の負担が増えたそうである。この様な仕事は助郷と呼ばれ、宿駅の近郷の農民が荷物運びとして、駆り出された。高い年貢の上のこの賦役は農民にとってたいへんな負担であったらしい。昔も今も税と名の付くものにはなやまされている様である。



第2回 光医歯会ゴルフコンペ

11月20日(日) 於周南CC

氏名	OUT	IN	HD	NET	順位
平田	47	45	18	74	1
光武	42	44	11	75	2
横山	44	42	11	75	3
儀本	41	45	10	76	4
森本	52	40	14	78	5
道上	55	61	36	80	6
守田		NR			

謹 弔



植木篤雄先生
11月12日午前7時20分御逝去
されました。享年32才
謹んで哀悼の意を表します。

光市立病院長 板垣省三

耳鼻咽喉科医として、大学での技術練磨も完成し、はじめて一人前として巣立った君が本院赴任わづか2ヶ月たらずのうちに、そう烈な死をとげたことには、ただ驚きの外に言葉がありません。

数少ない耳鼻咽喉科医のかくとかのため、2年以上も労を費やし、大学に日参したけっか、教授の誠意ある御配慮をいただき、しかも君のような教室の重鎮を御配属いただいた時は、本当に感激したのですが、時すでに病魔が君の身体をむしばんでいようとは。

ひく手あまたの大型病院をさしおいて、あえて本院に来てくれ、又大いに光を気に入ってもらえ、ひょっとすると永勤してくれるかもしれないと秘かに期待していたが、人間の運命とは見え^{さだめ}君もさぞ己の不運に腹^{おのれ}

が立ったであろう。

陶の田舎から毎日1時間以上かけて山口高校までかよった君は、御両親にとって小さいときから俊才としてほこりの息子であったと思う。昭和57年に山口大学医学部を卒業されてすぐに耳鼻咽喉科教室に入局され、6年間、診療に研究についやされた時間は何だったのでしょうか。

君は数少ない温厚の人柄であり、おごる

ことなく、又叫けぶことなく、医局でも職員の間でも、その人間性にたかい評価があったのですが。

弔辞をよみながら涙で字がにじんでしまい、又、前院長の代ってやりたいと吐き出した言葉には、これからの晴れやかであるべき君の人生がこのような形で中断したことに対するくやしきの表現である。

どうか、やすらかに眠って下さい。

編 集 後 記

年の瀬をむかえ、なにかと気ぜわしく成って参りました。

植木先生の所え新入会員の原稿のお願いに行きましたのが、つい数日前のような気がします。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

今年最後の会報に成りました。4月にバトンを受け継ぎ9号ほど出ましたが、振り返って見て反省材料ばかりで年が越せそうにありません。

むかしは12月13日に「煤払い」を行ない、一年間の煤を払って新年の準備の開始としたのだそうです。広報担当も頭の中を煤払いして新年号からの準備が要るようです。

来年も御意見・御注文をお寄せ願えれば幸いに思います。

良いお年をお迎え下さい。

(吉村)

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	竹中昭二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社